

デンソー山岳部 2012年 夏山合宿報告書 (Aチーム)

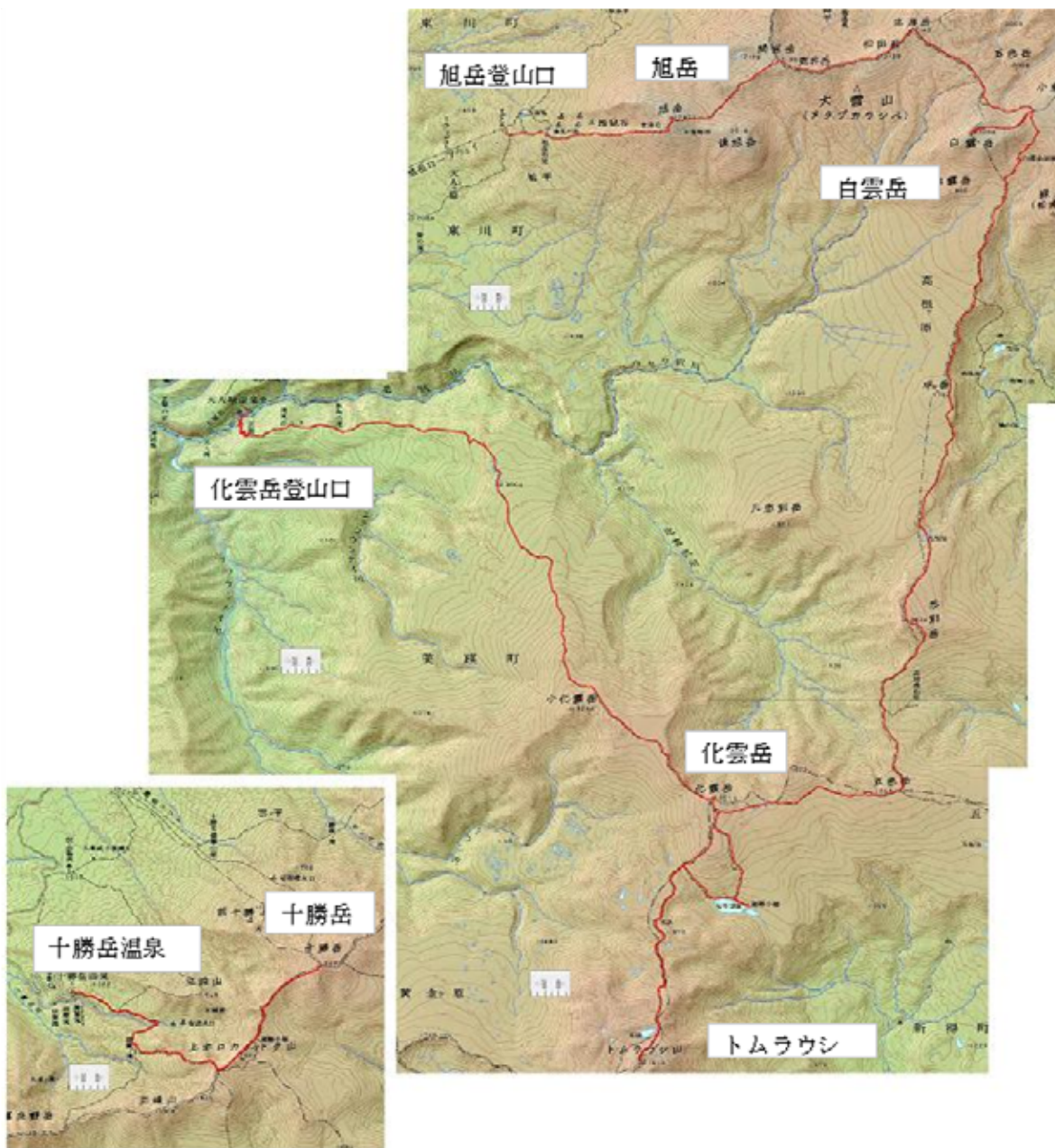
山城 旭岳～トムラウシ山 十勝岳

(旭岳登山口 - 旭岳 - 間宮岳 - 北海岳 - 白雲岳 - 白雲岳避難小屋 - 忠別岳 - 五色岳 -
ヒサゴ沼避難小屋 - トムラウシ山 - 化雲岳 - 化雲岳登山口 - 十勝岳温泉 - 十勝岳 -
十勝岳温泉)

日程 平成24年 8月10日～14日 (予備日1日)

メンバー 岸上 薫 (会計・CL) 神戸 和広 (SL) 津田 廣一 (気象・地形)
杉本 孝 (装備) 小野寺 了 (食料・記録)

【今回のルート】





北海道までの移動

フェリー組 (神戸、津田、杉本) 8月8日夜 刈谷出発
 飛行機組 (岸上、小野寺) 8月9日 刈谷出発

移動日 8月9日 (金) (記 小野寺)

新千歳空港着 (17:00) - 飛行機組合流 (21:50) - フェリー組と合流_空港発 (22:00) -
 旭川 (0:30) - 旭岳登山口着 (1:00)

夜勤後、仮眠をとり、自宅を出発する。飛行機の予約の都合から、岸上さんとは別に、早めの便で出発することとなった。愛知近辺の天候は安定していて、問題なくセントレアから離陸できた。しかし、北海道に近づくにつれて、雲が厚くなってきた。新千歳空港には夕刻に到着したが、上空から見た北海道の空は一面雲に覆われていた。不安にかられるが、もう来てしまったので、いろいろ考えても仕様がなと思い、新千歳空港内の散策を楽しむことにする。しばらく、散策を楽しんだ後、外に出てみると雨が降り始めていた。空港内の温泉で汗を流した後、最終便で来た岸上さんと空港到着口で合流する。岸上さんと北海道と愛知との移動に費やした時間について話をし、飛行機であれば定時後でも、千歳行の便に乗れるこ

とを再確認した。苫小牧に上陸したフェリー組と22:00に新千歳空港で合流し、Aチームが全員揃った。新千歳空港を出発、高速道路に乗り、旭岳登山口を目指すこととなった。しかし、全員が揃った喜びもつかの間、千歳近辺では天候が悪化し、土砂降りとなった。カーラジオから聞こえてくる天気予報も、私の絶望を誘うものだった。北海道全域で天候が急激に悪化しており、各地で大雨警報や注意報が発令されていた。これから向かう上川地方でも、大雨警報が発令されており、不安を掻き立てられた。

しかし、空港を出発し、道央道の砂川を過ぎたあたりから、雨脚が弱まり、空知、上川などに発令されていた警報も解除された。旭川に近づくとつれ、やや小降りとなり、安心したが、旭岳登山口に近付き、標高が上がるにつれ、また、雨脚がやや強くなっていった。登山口には1:00に到着したが、雨の為、テントの設営をあきらめ、車中泊することとなった。

第一日目 8/11(土) 雨のち晴れ 歩行=7H10M (記 小野寺)

旭岳登山口駐車場(6:00) - 大雪山旭岳ロープウェイ(6:10) - 姿見(6:25) - 旭岳(8:30) - 間宮岳(9:30) - 北海岳(10:25) - 白雲岳分岐(11:30) - 白雲岳(12:20) - 白雲岳分岐(12:40) - 白雲岳避難小屋(13:10)



3:30に起床したが、まだ、雨が降っていた。前日から雨の為、車中泊となり、全員なかなか睡眠が取れなかったようだ。特に、運転席、助手席にいた神戸さん、杉本さんはほとんど、眠られなかった模様である。初日から厳しいスタートだ。私は、雨天の山行経験はほとんどなく、レインウェアを装着しての登山は初めてであった。その為、不安ではあったが、他の皆さんに迷惑をかけるように出来る範囲で頑張ろうと決意した。雨の中、準備し、6:00に駐車場を出発、6:15のロープウェイに乗った。ロープウェイから見えるのはガスばかりで、景色が全く見えない。天候が悪いためか、他の乗客はなく、貸切り状態である。ロープウェイ

を降りた後は、旭岳頂上を目指し、雨の中、登った。6、7、9合目で各10分の休憩をガスの中取った。8:30に旭岳頂上に到着、景色も見えないが、今回、北海道に来て初めての山頂である。山頂で、今日、二組目の登山者と出会い、天候や山行について歓談する。10分の休憩の後、旭岳を下山、間宮岳に向かう。間宮岳に向かう途中、雨が止み始めた。さらにはガスもやや引き始め、展望も開き始めた。素晴らしい、途中で天候が回復する経験は初めてではないが、実に良いものだ。景色も素晴らしい。まだ、完全には、天候は回復していないが、時折見える眺望は雄大である。北海岳で、一本(10分)。白雲岳分岐(11:30)まで行く。途中でナキウサギの鳴き声を聞く。しかし、姿が見えない。時間に余裕があったので、デポし、ルートから外れた白雲岳に登ることになった。白雲岳はナキウサギの主要な生息地なので、姿を見ることを期待するも、残念ながら目撃することは叶わなかった。分岐まで戻り、杉本さんのみ、小泉岳を登ることを希望した。さすが山に対する思いが食欲だ。残りのメンバーは白雲岳避難小屋に行き、13:10に到着した。このころには、すっかり天候は回復し、晴れ間が広がっていた。



手続き後、テント場中央にテントを張る。杉本さんとは14:00に合流し、外で飲食をたのしむ。しかし、さすがに北海道、天気は良くなったが、動きを止めると寒い。慌てて、着込む。夕食後、19:00には就寝した。

第二日目 8/12(日) 晴れ 歩行=6H 25M (記 津田)

白雲岳避難小屋テント場発(5:05)ー高根ヶ原(6:10)ー忠別手前台地(7:15)ー忠別岳(8:10~8:25)
ー忠別避難小屋分岐過ぎ(9:15)ー五色岳(9:50)ーヒサゴ沼分岐(11:00)ーヒサゴ沼避難小屋(11:30)

足も伸ばしてV6テントでぐっすりと超快眠。3時30分にぴったりに起床。朝食を済まし、手際良く出発準備。5時5分に出発。快眠のせい、天気が良いせい、全員、快調だ！神戸、小野寺、杉本の3名が猛スピードで飛ばす。ラスト岸上との距離が、すぐに開いてしまう。「お〜い、ゆっくり行こうぜ」と、声をかけるが効果なし。アップダウンもあまりなく、雄大な眺めを楽しみながら進むと気分もハイになってくる。15年前の小雨の中、何も見えなかったのとは大違いだ。今回の好運をつくづく感じる。疲れを感じる事も無く高根ヶ原分岐も過ぎ、空沼・雪壁温泉の湯煙が見える辺りで、1本(5分)。再び、歩き出して15分程、暑いのでカッパを脱ぐ。汗もかかず、寒さを感じず、快適な歩行が続く。1時間歩いて忠別への登りの前の台地で1本(10分)。行動食をしっかりと食べ、気合いを入れて忠別へ。しかし、中々、近づかない。さすが、北海道！白いお花畑の忠別沼を通過し、



急登へ。少々、喘いだところで、今日の最高点の忠別岳頂上へ到着。皆で握手を交わして、万歳！目指すトムラウシがはるか、向こうに見える。ペースも快調の為、ゆっくりと山頂の360度の景色を楽しむ。忠別避難小屋分岐を過ぎて1本を入れ(5分)、五色岳へ。景色を楽しみつつも、

今日の最後の登りと気合を入れる。振り返ると、昨日登った旭岳が堂々と見える。五色岳にて1本(10分)。後は、ヒサゴ沼を目指すのみだ。化雲岳分岐(10:20)付近、“神遊びの庭”と称される湿地帯。もう急ぐ必要などない。素晴らしい景色を堪能しながら進む。ビューポイントが次々と現れ、写真を撮りまくる。目指すトムラウシに雲がかかっては、引いていく。まだまだ、はるかに遠い。ヒサゴ沼分岐(11:00)を過ぎると、かなりの傾斜の登山道を一気に下る。笹に隠れた道を注意してひたすら下ると、ヒサゴ沼が見えだした。予定よりも早く、ヒサゴ沼避難小屋へ到着(一番乗りだ！)。小屋に入り、一番いい場所を確保し、夕食までの時間を各自、楽しむ(私は、ヒサゴ沼周辺の散策で、高山植物の群落を楽しみつつ、明日のコースの下調べで時間を潰す)。持ちあげたビールを飲んで、充実した1日が過ぎていった。



の散策で、高山植物の群落を楽しみつつ、明日のコースの下調べで時間を潰す。持ちあげたビールを飲んで、充実した1日が過ぎていった。

第三日目 8/12(月) 晴れ/雨 歩行=13H(杉本 記)

コース

ヒサゴ沼避難小屋発(4:30)→トムラウシ山(7:35)→化雲岳(10:40)→天人峡温泉(15:35)→旭岳ロープウェイ駐車場発(17:30)→美瑛泊



3:30 起床、生憎雨は降ってなさそうだ。4:30に避難小屋を出発し、ヒサゴ沼の木道を歩き雪渓を登る。登っているうちに雲行きが怪しくなってきた。登り終えた所に分岐点があり、雨が本降りになってきたのでカップに着替え、ザックをデポする。ここから急登になる。1ピッチ位歩くと、日本庭園と言われている箇所を通り過ぎた。岩とハイマツと池がいい味をかもし出している。日本庭園とはよく言ったものだと感じた。しばらくすると、岩がゴロゴロしている所を通過。ここがロックガーデンと言われているらしい。岩だらけでマークが少なすぎて、道が良くわからない。

S Lのリードで無事岩場をクリアーする。

7:05 北沼分岐で一本とり、7:35 トムラウシ山頂上に到着。何も見えない。全員の写真を撮り、早々と下山開始する。岩場をどんどん下り、先程の日本庭園に差し掛かる。やはりこの景色がいい。晴れた時に、ここと、山頂をもう一回見たいものだ。9:30にザックをデポしたヒサゴ沼分岐に到着。ここで一本とり

重いザックを担ぎ、化雲岳を目指す。1ピッチ程で化雲岳に到着。雨と強風で長い時間いられない。こどもすぐに後



にし、天人峡へ降

る。少し降った小化雲岳付近で1本取ること。ぜんぜん雨が止む気配がない。ここからの下山道がすごかった。道が雨の為、川のごとく流れており、所々池になっており、川歩きのような。皆、靴の中までびしょびしょだったと思う。第一公園あたりに木道が敷かれており、周りに紫色の花が咲き誇っていた。どうやら群生地のような名前がわからないのが残念。(帰って調べたところ、タチギボウシ?かも知れない。)高山植物保護の為、木道が敷かれているのだと思うが、この雨の中、唯一ありがたかった。



15:35 天人峡温泉に到着。ホテルの玄関先で着替えをさせてもらい、ジャンボタクシーで旭岳ロープウェイ駐車場へ戻る事にした。そこから美瑛に移動し、明日の十勝岳山行に備え就寝した。



第四日目 8/14(火) 晴れ 歩行=6H 25M (記 岸上)

十勝岳温泉発(6:00)ー上ホロ分岐(7:00~7:05)ーかみふらの岳(8:05~8:15)ー大砲岩(8:50)ー一本(9:00~9:10)ー十勝岳山頂(9:30~9:35)ー上ホロ避難小屋(10:15~10:25)ー上ホロ分岐(11:25~11:35)ー十勝岳温泉(12:10)

朝4時起床、5時30分頃に十勝岳温泉に到着。朝から雨が降っており、何となく憂鬱だ。駐車場に到着してみると、既に車が何台か停まっているが、雨のためか車の中でごそごそとしており、登山口から登り始める人はほとんど見えない。まあ、雨の降り自体はそれほど強くはなく、十分に歩けるレベル。合宿の最終日という事もあり、さっさと準備を始めて、6時から登り始める。昨日のぬかるんだ道に比べたら圧倒的に歩きやすい。さすが、地元の小学生でも歩けるといっただけはある。なだらかな道を30分程度歩くと、ようやく登山道らしい道になる。ここから登りが続くが、昨日までに比べれば楽なものだ。上ホロ分岐を若干過ぎた所で一本を取り、そこからの急坂に備える。急坂で高度を稼いでいくと、途中から富良野岳が綺麗に見える。やはり眺望が良いと足が軽くなる感じがする。分岐から1時間程でかみふらの岳山頂付近に到着。何となく山頂にご挨拶(しょぼかった)。ここからは十勝岳が良く見える。稜線沿いに歩いていくと着く、まず上ホロカメットク山の山頂に立つ、ここは上ふらの岳とは異なり、山頂らしいのできちんと標識にご挨拶。こ



こを下ると、上ホロ避難小屋だ。小屋付近は、風の通り道には当たらないようで若干風が弱い、風の通り道になっているところでは、本当に風が強く帽子が飛ばされそう。実際、この付近で杉本さんの帽子が飛ばされかけ、杉本さんの驚いた表情が忘れられない。大砲岩までは風が強い中、稜線をゆっくりと歩いた、途中で熊を見たがっていた杉本さんが、熊を発見。最初はわからなかったが、確かに黒い物体が動いている、自分の目やカメラでは、表情までは見る事が出来なかったが、確かに熊のようだ。近くで見ると大変なことになるが、これだけ距離があると安心して見ていられる。次回の北海道山行の時は、双眼鏡を個人装備に加えよう。熊が名残惜しかったが、帰りも通る事なので、十勝岳に向かって進む。途中なだらかな所で一本を取ったあと、無事に十勝岳山頂に到着。風が強い事もあり、山頂では写真を撮ただけで、そそくさと下山に入る。丁度、下山を始める時に望岳

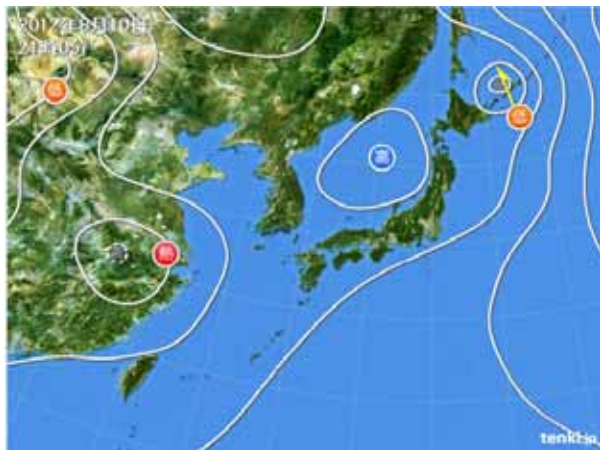
台方向から登ってくる数パーティーが目に入る、あちらからのルートだと本当に単調に登っていただけの道だとわかり、十勝岳温泉ルートから来て正解と思った。下りも、稜線に戻って行く途中で熊を見られて嬉しかった。上ホロ避難小屋で一本を取り、上ホロカメットク山頂まで行った後に、巻き道があるのを思い出した(まあ眺望も良かったので)。かみふらの岳からは、一気に下って行く、再度、富良野岳が綺麗に見える。次回は行くぞと心に決めました。行きと同じく、上ホロ分岐付近で休憩をとり、登山口まではすごく短く感じました。下山後は、次の幌尻岳に向かうため、小野寺さんを富良野駅で降ろして、ここで夏合宿は終了。最終日は、本当に天候に恵まれ、最高の一日でした。



<気象>

(記：津田)

8月10日 21時



北海道の東側に低気圧があり、登山口への移動時の雨は、この影響か？

8月11日 21時



低気圧はなく、さほど悪い天気でもない。大気の状態不安定で未明にかけて雷雨の可能性との予報通り、登山開始時は小雨、その後、天気回復して晴れになった。

8月12日 21時



北海道は前線からも遠く、天候は安定していた。昼に近づくにつれ、雲が多くなったが、1日、晴れの天候であった。

8月13日 21時



前線の北上と北海道で弱い低気圧の発生の影響で、ほぼ1日、雨の天気となった。頂上付近は風も強く、登山に向けた天候ではなかった。

8月14日 21時



大陸からの移動した高気圧が前線を押し下げて、天気は回復した。しかし、山頂の風は強く、山頂で写真だけを撮って下山した。

13日は、ほぼ1日中雨であったが、13日以外は、雨よりも晴れていた事の方が多かった。現地で、天気図作りにチャレンジするも天気図としての全体概念の把握が出来ず、観点望気に頼った現地天気予報となってしまった。大矢予報官の予報が、大いに役にたった。改めて、感謝、申し上げたい。天候の予想そのものは、ほぼ合致していて、内心、ホッとした。個人的には、せめて、山中で天気図がきちんと作れる様にしたいと思う。

<リーダー所見> (岸上)

皆さん、お疲れ様でした。全体的には天気に恵まれ、眺望も良かったですね。特にトムラウシ山は、白雲岳避難小屋から化雲岳付近に歩く間に大変綺麗に見え、私自身、感動しました。偵察も兼ねて、二日目・三日目に二度トムラウシ山に登りましたが、近くで見るより、遠くから見たほうが映える気がします。初日・二日目・四日目は、行動時間が短い上に天候にも恵まれたのと比較し、三日目のトムラウシ往復～天人峽温泉までは、元々、行動時間が長い上に“風”は強いわ、“雨”は降るわ、“道”は悪いわの3拍子がそろってしまい、体も心も折れやすい環境だったと思います。実際に後ろから見ていても、疲れが相当出ていたと感じました。そのような中で、5人全員で最後まで歩き通す事が出来たのは、今回の山行に向けた各人の事前準備の賜物だったと思います。ありがとうございました。

行動全体を通して見て、新人の小野寺さんは、朝の準備や、一本を取った後のザックを担ぐタイミングもSLの動きを見ながら出来ており、大変良かったと思います。次回へのステップアップとしては、食糧係でも記録係でも、自分が仕切って周りを使えるようになって下さい。特に食事については、食糧係が全部作ったり、皿に分けたりする必要はないので、どしどし言って下さい。来年は、山行のSLなどをやり経験を積んでもらえればと思います。

私も含めた全員への反省としては、朝起きてから出発までの時間の使い方があります。朝起きてから出発までの行動(①シュラフ片付け、②朝食準備の場所を空ける、③コッヘル準備→湯を沸かし・食事を用意、④自分の食器準備、⑤共同装備を片付け、⑥個人装備の整理、⑦テントの撤収、⑧パッキング)を頭に入れ、前日の夕食時などに、「誰が何を持っているか」「役割分担」「必要なものがすぐ出せる状態にあるか」などをしっかりとやっていけば、朝の準備時間を短縮出来、その分を行動時間や睡眠時間に回すことが出来ると考えます。あと、当然ですが、全体作業(朝食準備やテント撤収)を優先して、対応する事を心掛けましょう。

最後は、初日から大量の水を運びながら、皆を安定したペースで引っ張ってくれたSLの神戸さん、歩きも力強く頼りになりました。ありがとうございました。

<サブリーダー所見> (神戸)

今回は旭岳、トムラウシとガスに巻かれたり、化雲岳からの下山は強風にさらされるなどしたが、天候が山行に大きな影響を与えることなく、予定通りの行動ができてよかったと思う。事前の体力・精神力トレーニングが実を結んだ結果と思う。私自身は白雲岳からのただっ広い高根が原や五色岳から化雲岳への伸びやかな登山道というか、トレールが気持ちよく、ついペースを上げてしまい、また休憩時間も短めだったかもしれない。反対に悪天の三日目は強風で声が通らず、意思疎通ができなかった。メンバーと相談して状況に応じたペースなど配慮したい。

<装備所見> (杉本)

今回、北海道組みは総員5人なので、テントはV6用を持っていったが、荷物や、身動きを考慮すると、贅沢かもしれないが、丁度良い大きさだった。また、共同装備として、LED懐中電灯を持っていった為、テント内で各自の懐電を使う事も少なく、結構便利に使わせて貰った。後は特に気になったところは無く、装備としては、心配点は無かったと思われる。

<食料所見・感想> (小野寺)

メニューの作成から、分量の決定まで、勝手にわからず、非常に手間取った。岸上さんと特に杉本さんの協力がなければ、とてもうまくいかなかったと思います。御二人には、御迷惑を掛けました。ありがとうございました。また、実生活では自炊はしているが、米は使わないので、調理も苦労した。

また、当日の体調次第で食べる量が変わるため、余り気味になったり、ややもの足りなくなることもあり、一度にすべて調理せずに様子を見たり、多少の予備を用意した方が良いと感じた。

1日目	夕食	ハヤシモチ	わかめスープ	海藻サラダ	リング	
2日目	朝食	卵雑炊	夕食	ラーメン	海藻サラダ	牛肉しぐれ
3日目	朝食	バジルパスタ				

念願の大雪山、カムイミンタラに行けて、とても良い経験が出来た。また、行きたい。

<感想> (津田)

15年前に来た時は、合宿中、雨にたたられ、リベンジの気持ちもあって参加した。雨の日もあったが、トータル的には天候に恵まれたいい山行だったと思う。又、メンバーにも恵まれて、いい思い出を作ることができた。この意味でも、感謝申し上げたい。旭岳とトムラウシは、いつの日か、晴れの山頂に立ちたいと思っている。これからも、長〜く、山を楽しんでいきたい。

<会計報告>

収入		支出	
会費(5名) (11,400円/人) *飛行機代・船代は含ま ず	57,200円	車代	10,500円
		ロープウェー代(旭岳)	8,000円
		タクシー代(仙人峡 旭岳登山 口)	7,600円
		食料代	9,100円
		テント場代(白雲岳避難小屋)	1,500円
		宿代(美瑛町)	20,000円
		その他(通信費)	200円
	57,200円		57,200円

■ 総括

今回は、5名で山行をやり切れた事が何よりの収穫でした。北海道の特徴としては、水が煮沸しないと飲めないため、いつも以上に水を持ち上げないといけなく、荷物が重くなることがあります。しっかりとした体力づくり、個人装備の軽量化が必要と感じました。

① 山行計画、留守部員

昨年の反省を活かして、事前に参加メンバーでコースを地図上でチェックするなど実施し、ある程度までは、計画を吟味することが出来ました。ただ、もう少し、同じルートを歩いた人の感想を読むなどをして、道が整備されていて歩きやすいのか、天候による影響などコースタイムに表れない部分についても吟味する事が必要でした。留守部員については、去年の反省もあり、早めに募集を掛けた事、部員自身の意識も変わった事もあり、ある程度、スムーズに集めることが出来た。来年も早め早めにやっていきたい。

② 事前準備

部全体として、しっかりと全豊田の岩登り講習会・7月例会・平地合宿を、夏合宿の必須事項とした事もあり、体力レベルの確認、および訓練になりました。更に、新人の小野寺君、体力に不安がある津田さんには、S Lで新人担当の神戸さんが積極的に個人山行を企画して連れて行ってもらったことも良かったと考えます。一方、平地合宿にC Lの自分自身が参加出来なかったのは申し訳ありませんでした。例会・平地合宿・夏合宿はセットで、年初から計画をたてて進めていきます。

部員全員で問題認識を共有し、次回の合宿に繋げていければと思います。

来年もたくさんのメンバーで合宿を盛り上げていきましょう！最後に、差し入れを頂きました不破さん、留守部員を引き受けてくれた町田部長、山田C L、芦田総務幹事、他部員の方に、感謝を申し上げます。